

評価実施年度	令和 6 年度	学校名	大分県立 中津東 高等学校	
学校教育目標	地域の商・工の未来を拓く学校という理念のもと、地元産業界と連携した高度な知識・技術の習得および人間力の育成に取り組む教育活動を通して、地域社会の発展に貢献できる産業人として必要な力を育成する。			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	学校教育目標	○的確な学校経営ビジョンが策定されていて、学校教育目標の達成に資するために重点目標の焦点化が図られ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。	・良い。 ・校長のリーダーシップの下、様々な取組がなされている。 ・教員の意識を切り替えるために様々な取組が必要である。 ・授業の活性化について、専門学科の枠をこえて統合的に改善のための取組を進める必要を感じた。 ・アンケート結果を基に振り返りはできているが、更なる改善ができないか等の視点で検討すると良い。	・引き続き、全教職員でスクール・ミッション、スクール・ポリシーの共通理解を図り、教育活動を展開する。 ・全校集会等を活用して教職員が学校教育目標を意識した講話等を行い、学校全体で学校目標達成に向けて取り組む意識の醸成を図る。 ・学年学科の取組を連携させ、本校の強みを生かした教育活動を推進する。
	P D C A サイクル	○重点目標を達成するための焦点化された取組指標や達成指標等が適切に設定され、機能しているか。 ○取組指標や達成指標等の評価・検証を計画的に行い、以後の実践に直ちに反映させるなどP D C A サイクルが確立しているか。 ○予期しない課題が判明した時点で、その解決に向けて校内分掌が速やかに機能するように、組織的な責任・運営体制は整備されているか。	・極めて良い。 ・授業改善のためのPDCAが回りつつあることは評価できる。 ・RAMPS(精神不調アセスメント)の導入で、心の問題を早い段階で抽出できるようになったことは素晴らしい。 ・上記の結果へのアフターフォローにも取り組んでおり、システムが機能していることも素晴らしい。 ・教職員の意見が中間管理職へ伝わり、管理職へと届くサイクルができあがっていることは素晴らしい。 ・学際的な授業研究会は大変有効なため、その後のフィードバックの充実も期待したい。	・各種取組の振り返りと検証を行い、成果や課題を可視化して全体で情報共有を図り更なる改善に取り組む。 ・教職員一人一人の取組が、学校評価やスクールプランと連動した取組となるように、目標管理面談を通して意識づけを行う。 ・学校評価に掲げた重点目標達成に向けて、ミドルリーダーを中心に組織的な取組を進め、PDCAを確実に回していく。
	社会との連携・接続	○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 ・情報の伝達・公開を適切に行っているか。(ホームページ・SNSの活用、学校便りの発行等) ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・地域内外の関係機関との連携や人材を活用しているか。	・極めて良い。 ・ホームページによる情報の伝達や1学年の公開は適切に行われている。 ・家庭学習時間の不足という結果について、改善策の検討を今以上に深く行くと効果が見込めると考える。 ・学校単体ではなく、社会の中で学校が生きていることを生徒が感じられている点が素晴らしい。 ・今後は地域の反応を知る工夫にも取り組むことを期待する。 ・出前講座や技術大会等の実績が素晴らしい。地域へ報告する会等を実施すると新たな展開が開けると考える。	・各種教育活動を学校ホームページ等を活用し随時発信することで、地域社会や保護者に向けて学校の魅力を伝える。 ・学校行事や特色ある取組を積極的にメディアに向けてプレスリリースを行い、広く情報発信を行う。 ・生徒の取組を各種通信や学校ホームページに掲載し、生徒のモチベーションアップを図るとともに、教育成果を広く地域社会に発信する。 ・学科の特色を生かした活動や部活動の取組を地域貢献に活かし、地域社会からの信頼や評価を高めていく。
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	○授業の活性化が図られているか。 ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ・ICTを活用して、授業の効率化や授業の振り返りにつながっているか。 ○総合的な探究の時間や課題研究の学びとその他の教科・科目の学びが有機的に結びついているか。 ○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。	・良い。 ・授業改善についてPDCAを回し、互見授業やICT活用研修を行う等の学校全体による具体的な取組が良い。 ・ICTの効果的活用が授業の理解度、満足度を高めていることが看取できた。 ・互見授業後の各々にフィードバックする仕組みづくりやICTの効果的な活用の主体的な取組が求められる。 ・工業実習で工業教育の伝統と不易性を看取できたが、教室では生徒の真剣味や集中力が感じられなかった。 ・ICTの利用はできていたが、利用している教員を中心に次のフェーズの研究会を開き、DXへと発展してほしい。 ・生徒は専門的な人材を育成できる本校に誇りをもっており、特に実習に対する満足度は高かった。 ・生徒にとって有意義な授業ができているかの自己チェックが必須になる。教員の日々の研鑽が求められる。 ・教師と生徒が対等に学校の在り方を議論する場を一刻も早く設けてほしい。生徒たちは望んでいる。	・各種アンケート結果の検証・分析を行い、スクールプランに掲げた目標達成に向けた進捗状況を把握し、目標達成に向けてPDCAを確実に回していく。 ・定期的な教科・学科会議を定期的に関き、カリキュラム・ポリシーと連動した授業実践に向けた共通理解を図る。 ・互見授業の機会を設定し、実施後にフィードバックを行い、個々の授業のアップデートを図る。 ・授業改善検討会後に、振り返りと検証を行い具体的な改善内容を学校全体で共有し授業改善につなげる。 ・ICTの授業における効果的な活用に向けて、情報共有を図るとともに職員研修を実施し、個々の教員のスキルアップを図る。
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。 ○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。	・良い。 ・いじめアンケートは年5回の実施が予定され、加えてRAMPSを有効活用していることも評価できる。 ・いじめ防止プログラムの実施は評価できるが、生徒の心に響き、行動変容に繋がる道徳教育が求められる。 ・いじめ、問題行動の解決に重要なのは事前の学びであり、そこまでに至らないようにすることが重要である。 ・いじめ、問題行動の発生後はどう解決し納得させたかが重要で、教員内で共有することが組織の力になる。	・学期はじめに個人面談週間を実施して、生徒情報の共有を図り積極的な生徒支援を行う。 ・人間関係プログラムを定期的に実施し、よりよい人間関係づくりを通して、自己肯定感やコミュニケーション能力の向上を図る。 ・RAMPSといじめアンケートを効果的に活用して、積極的ないじめの認知と早期対応を行うことで、生徒が安心して過ごせる学校生活づくりを目指す。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携を強化して相談体制の充実を図り、生徒の安全・安心な学校生活を保障する。
	安全管理	○学校施設等の安全点検や通学の安全指導及び教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 ○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。	・良い。 ・工業実習では安全指導を徹底されているが、一部の教室では整理整頓が十分に進んでいないように伺えた。 ・危機管理マニュアルについては改善がみられた。 ・大規模な実習室を事故なく運営しているのは素晴らしい。 ・内線電話の設備や電話の取り扱い方法等の掲示があった方が良いと感じた。 ・保健室の利用は「ケガ」が多いとのことだが、その原因を探り対策を検討することが必要ではないかと感じた。	・防災教育コーディネーターを中心に、定期的に危機管理マニュアルの見直し・改善を行い、職員生徒の共通理解を図り防災避難訓練を実施する。 ・工業科における実習の安全指導に向けて、生徒に対する事前指導の徹底を図るとともに環境整備と定期点検を行い、生徒・教員が協力して安全管理整備に取り組む。 ・学校安全計画に関する共通理解を図り、安全に関する諸活動を実施する。
信頼される学校づくり	働き方改革	○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しを図られているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。	・部活動に熱心な教員は本業の授業との両立を意識し、文武両道の体現者として生徒に範を示してもらいたい。 ・生徒表彰はやる気を生むが、先頭に立つのを嫌うタイプも増えている。他の方法も検討すると良い。 ・超過100hの教員も数人見られる。部活動が要因と理解したが、それでも解決策を検討されることを期待する。	・部活動活動方針に基づき、合理的でかつ効率的・効果的な部活動の取組を推進する。 ・部活動顧問を複数配置して、部活動指導の負担軽減を図る。 ・個々の勤務記録を月ごとに提示して勤務状況の自覚を促し、超過勤務者に対しては産業医の面談を促す。 ・業務の効率的な取組の共有化を図るとともに、各種業務のDX化を推進する。
	学校課題の解決に向けた取組等	○専門教育と普通教育の統合的人間教育が図れているか。 ○スクール・ミッション及びスクール・ポリシーの達成に向けた教育活動が計画されているか。	・特色を出すために、専門教育と普通教育の有機的な連関による統合的人間教育プログラムが求められる。 ・校長の取組は多角的で合理的である。後は現場の理解を深め、実践すると素晴らしい学校になると確信する。 ・生徒と向き合う時間はソフトで解決できる問題ではなく、生身の人間が向き合うという魅力の話と捉えてほしい。	・学年と学科の有機的連関を図る教育活動を展開し、本校の魅力アップを図る。 ・学科の特色を生かした教育活動を地域社会と連携して取り組み、地域から愛される学校づくりを目指していく。 ・質の高い教育を提供していくために、教職員間で共通理解を図り、風通しの良い職場環境づくりに努める。 ・生徒と向き合う時間の増加や授業の質の向上のために、外部人材の活用や業務のデジタル化を推進していく。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が第1回目の指摘に真摯に向き合ったことが大変良くわかった。生徒の高校生活が充実していることも良くわかり、何よりも生徒に主体的に学校を良くしたいという心意気がある。 ・退学者数については原因究明を進め、大人の理論だけでなく生徒への聞き取り調査も行いながら、その対策を講じることを期待する。 ・生徒が本校への進学を希望した時の気持ちに応えるためには、生徒の本音をじっくりと聞き取ることから始める必要があると考える。大人の理論で子どもの心を計ると誤った答えになることが多いのではないだろうか。 ・校長のリーダーシップは素晴らしいと感じるため、是非ともお互いを思いやることのできる人間関係を生徒たちの中にも芽吹かせてあげてほしい。 ・校長には専門教育と普通教育を有機的に統合する象徴としてのスタンスをもって、リーダーシップを発揮し、専門教育の不易性と普通教育の流行性との有機的な連関の要(かなめ)としての役割を積極的に果たされんことを期待する。 ・授業(実習・座学)＝道徳教育の推進となるような、生徒による主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善(教室でも生徒が主体的に考え、他者との協働を図る)の推進が期待される。 			
校長コメント(次年度の改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で「学校目標」を共有し、学校全体が一体となって目標達成に向けて取組を進めていく。 ・学校評価を活用して、取組課題を可視化して共通理解を図り、改善に向けて組織的な取組を推進していく。 ・スクールプランに沿って組織的に授業改善を進めるとともに、専門教育と普通教育の連携を強化し横断的な学びを推進していく。 ・積極的な生徒指導に向けて、予防的アプローチを進めるとともに、生徒の自己有用感を高める取組を行っていく。 ・生徒支援体制の強化に向けて、生徒の面談等を活用して定期的なフォローを行うとともに、悩みを早期に発見し組織的に迅速な対応を行っていく。 			